

眼のコラム第4回は緑内障についてのお話です。

緑内障とは

何らかの原因で視神経が傷つき視野(見える範囲)が狭くなっていく病気です。
一度障害を受けた視神経は再生することがないため、緑内障は失明の危険を伴う疾患です。

緑内障の原因

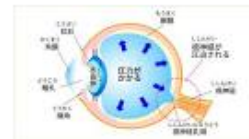
眼圧の上昇がその病因の一つと言われています。
眼球内の圧力が高くなるとその影響で視神経が圧迫を受け、視神経に障害をもたらします。
このためそれまで視神経がキャッチしていた情報が脳に伝えられなくなり、視野に見えない部分が出来たり、視野が狭くなったりします。
眼圧以外に循環因子などが関与する正常眼圧緑内障など緑内障にいくつか種類があります。

< 緑内障の種類 >

- 開放隅角緑内障
- 閉塞隅角緑内障
- 正常眼圧緑内障
- 先天緑内障
- 続発緑内障 等

緑内障の症状

緑内障の自覚症状としては見えない場所が出現する、あるいは見える範囲が狭くなる症状が一般的です。
しかし、日常生活では両眼で見えていますし、多くの場合病気の進行は緩やかなので初期は自覚症状がほとんどありません。



急性の緑内障では、急激に眼圧が上昇し、目の痛みや頭痛、吐き気など激しい症状を起こします。
急性閉塞隅角緑内障の発作が起きた場合はすぐに治療を行い、眼圧を下げる必要があります。
このような場合は点滴やレーザー治療が必要となりますので、ただちに救急病院を受診してください。

緑内障の検査

1. 眼圧検査
眼圧計で測定します。
目の表面に測定器具をあてて測定する方法と目の表面に空気をあてて測定する方法があります。
2. 眼底検査
視神経の状態を見るために、視神経乳頭部を観察します。
視神経が障害されるとその部分のへこみが変形したり、大きくなったりします。
3. 視野検査
光の見え方で視野欠損の程度を調べる検査です。
視野が正常か異常か、また病気の進行状態を調べます。



*当院では予約制で視野検査を実施しております。

緑内障の治療

緑内障の進行は常に一方通行であり、喪失した視野や視力を治療によって取り戻すことができません。あくまで進行をゆっくりするためのものであり、見え方を改善することはできません。



1. 薬物治療

点眼薬で眼圧を下げます。点眼薬だけでは効果が不十分な場合、内服薬を併用する事もあります。

2. 外科的治療

薬だけで眼圧を下げるできない場合には、レーザー手術や外科的手術で房水の流れを良くして眼圧を下げます。

※近年、緑内障は若年化・増加傾向にあるといわれており、早期発見・治療が大切なので、40歳前後の方は一度眼科での定期検査をおすすめします。